

まつる

人々の暮しを生き生きと、活気のあるものにするには、四季の風情やその土地ながらの伝統行事は欠かせないものとなっている。

時の流れとともに、生活も画一化され、ここ大浦校下も伝統行事は簡略化され、昔の個性豊かな大判振る舞いも影をひそめてしまった。

しかし、長く人々に慈しみ、育まれてきたそれらは、今日を力強く生きる暮しの演出として間違いなく、確かな支えを得て人間的な豊かさを伝え続けている。

ものごころがつき始めてから、外で遊びほうけた日々の想いには、誰しものが経験してきた祭りやお盆、ほうそう流しやきねまき・繭玉といった人生の通過儀礼の楽しさが印象に残っているはずであろう。

祖父母から親へ、親から子へと脈々として受け伝えていかれる姿に、人としての微笑ましい生き様を感じとられる。

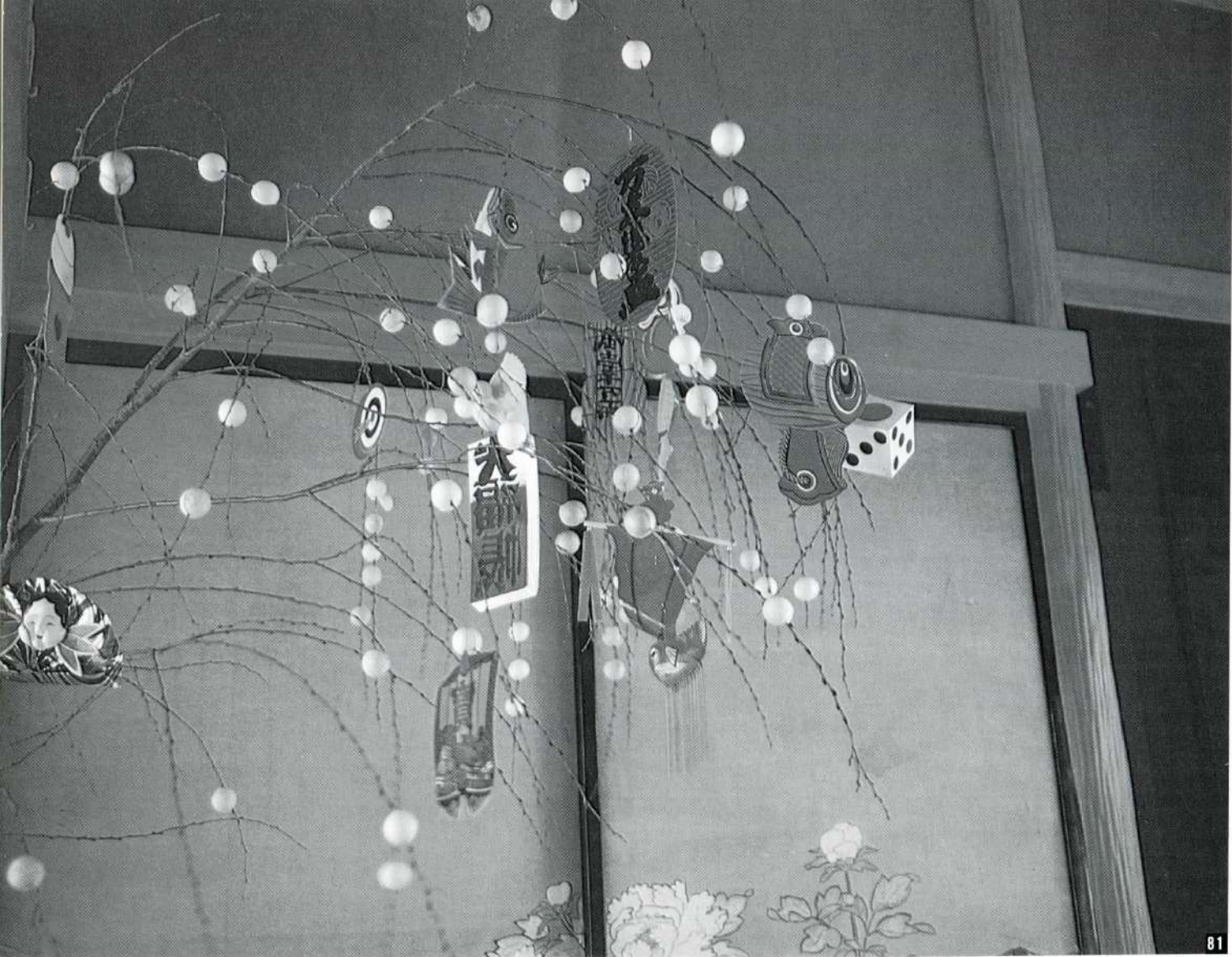
夏の夜、田んぼ道はたいまつをもった村の子供たちの虫送りの歓声でにぎわう。秋祭りになると各々の町でくりひろげられる獅子舞、みこし、奴行列、バザーの催しは、隣近所の人たちが大人も子供も誘いあって楽しむふれあいの場となる。

人々の結びつきや暖かさは、決して忘れおかれた存在となっていない。

家族の幸せを願い、共に生活していくことの大切さは、これらの伝統行事のなかにひっそりと秘められているのであろう。

まつる姿は人々の心の表現である。

(東蚊爪町・西道了昌)





82

82 大浦町のお正月の出初め式 消防団の晴舞台
83 木越団地の左儀長。団地でも伝統行事は盛んだ



83



85



84

84 赤ちゃんのお食い初め、かわいい娘に育ってね

85 赤ちゃんのお食い初め、おばあちゃんの手作り料理



88



86



89



87

- 86 伝統行事大浦町の虫送り
 87 大浦町の虫送り。子供たちによって火のついたワラをひっぱり歩く
 88 野菜を供えて今日は地藏盆。六地藏が見守ってくれている
 89 同上

虫送り

真夏の一夜は子供たちの歓声でにぎやかだ。
 竹ザオに藁を幾束もからめて、たいまつを作り、村の神社から村はずれの広場へと火をつけたたいまつを引きずり歩く。
 闇夜に明りで浮かぶ子供たちの顔は、紅潮してスリルでいっぱいのような。幼い頃の思い出は大人になっても、語り継がれていくだろう。



92



90



93



91

- 90 今年も地蔵盆に会えました
 91 木越団地盆踊りの仮装大会
 92 東蚊爪町須岐神社の古式通りの二十日祭り
 93 大浦町豊栄神社の秋祭り

地蔵盆

8月の旧盆が終われば、地蔵盆が待っている。村のはずれのお堂には、赤い帽子と前掛けをつけた六地蔵が黙って村人の生きざまを見つめている。一年に一度の地蔵盆には、ろうそくの灯と共にナスやキュウリをお供えて、子供やお年寄りの楽しい語らいの場が生れてくる。



94

- 94 大浦町獅子舞い
95 同上 芸者
96 青年団による大浦町獅子舞い



95



獅子舞

勇壯な獅子舞は、村の青年団の心意気。一日中家々を練り歩く姿は疲れを感じさせない。振る舞い酒もぐいっと飲み干す。どこから眺めてもニラミをきかす大きな目、シワもみごとなし鼻で口を開けたら怖さは抜群だ。村々に伝わる獅子舞は秋祭の主人公だ。



97



98

97 大浦町獅子舞い 目録

98 同上

99 木越町秋祭り神社境内のにぎわい

100 木越団地秋のフェスティバル。子供みこしを楽しむ



99

秋祭り

おはやしの笛の音が聞こえてきた。子供の声も聞こえてきた。
稲の取り入れも終わったら、それぞれの村は祭り一色になる。
先祖伝来のみこし、獅子舞、奴行列もあれば、新しく模擬店を開いて
住民総出のふれあいも。今日一日は皆童心に帰って心は騒ぐ。



100



- 101 木越町秋祭り。主役はやはり子供たち
102 同上
103 木越町獅子舞い
104 同上。青年団のおはやしは気分最高
105 東蚊爪町秋祭り。神妙な顔付きでお化粧
106 東蚊爪町秋祭り。奴行列には子供も怖がる

